

保育者養成校の「保育内容 表現」について

—絵本を用いた表現活動の研究—

石 橋 裕 子

(鎌倉女子大学)

[研究の目的と方法]

保育活動の中にはリトミックが広く取り入れられている。保育者採用試験でもリトミックを課している園が増えてきている。

音楽教育は人間の心とからだの発達段階を考慮して行うべきだと考えたダルクローズは、研究を重ねた結果、リズム運動を取り入れた。すなわち、「からだで覚える」ということである。音楽を聞く、歌う、演奏する、作るといった音楽教育で学ぶ全てのことを、からだを動かす経験を通じて感じとっていくのが、リトミックの教育である。

一方で、絵本や紙芝居の読み聞かせは、保育者と子ども達とが、心通うぬくもりのある時を共有できるひとときであり、保育に欠かせない活動の一つであると考えている。絵本の絵とことばは互いに補い合ってストーリーが展開しており、ものごとを頭や心の中で絵にして、物語を作り上げる想像力を育てるのだと考える。また、昔から読み継がれてきた絵本は、子ども達の知識・感情・感覚を豊かにし、ものの見方を支えてくれるとも考える。

本研究は、読み聞かせてもらった絵本での心の冒険をした後、今度は自分達でその世界を想像してからだで表現するという活動を通して自分なりに表現する活動（自己表現）の方法を模索することとし、学生の提出したレポート等により、表現の講義内容を考察するものとする。

[実践事例1]

ねらい：ア 音楽（テーマ）による即時反応（資料1）

イ 低音による合図の即時反応（資料2）

ウ 高音による合図の即時反応（資料3）

エ 高低同時の合図の即時反応

オ ことばによる合図の即時反応

方法：ピアノに合わせて歩く・走る・スキップをしながら上記ア～オの合図を聞き分けて即時反応を行う。

ア この音が聞こえたら立ち止まって右手のこぶしを上にあげて「ヤー」と言う

イ この音が聞こえたら床に手をつきながらしゃがむ

ウ この音が聞こえたらジャンプしながら手を叩く

エ この音が聞こえたらイ→ウまたはウ→イの動作をする

オ 「握手」「3人」「壁にタッチ」などのことばの合図を聞き分ける

初めはわかりやすいフレーズの切れ目で合図を出し、少しずつ予測しにくい場所で合図した。楽しそうに反応したり驚いたタイミングをつかみ、合図の出し方を工夫した。オの応用として、「リズム」と言ったら「ピアノ」と答えるようにもした。

[実践事例2] 学生によるロールプレイ

実践事例1での体験を元にして実施。先生役の学生の即興演奏に対する恐怖心を緩和するため、高音・低音各1名ずつ、計2名で行った。初めの2名は合図2種類、次の2名は3種類というように1種類ずつ増やし、最後の2名は6種類の合図を出した（合図の一部は資料7～10）。

[実践事例3] 絵本「のせてのせて」（松谷みよ子/文

東光寺啓/絵 童心社）

ねらい：ア 階名唱

イ 即時反応

ウ 音楽（テーマ）の聞き分け

エ 長調と短調の聞き分け

方法：手にハンドルを持ちながら（持つ真似）、ピアノに合わせてドライブする。音楽がストップしたら「赤」と言う。登場する動物のテーマを合図し（うさぎ、くま、ねずみ）、イメージで動く。また、何匹いるか数え階名唱する（資料11）。ねずみ登場時は左頁のみ見せて右頁はマスキングしておき、少しずつ紙をずらして階名唱する。トンネルに入る合図は短調にし、トンネルから抜け出た合図は長調の和音で示し（資料12）、これが聞こえたら「ピカピカ」と言う。ドライブの途中で上り坂・下り坂、信号をイメージさせる（速度の変化）。また、動物の大きさに合わせて歩き方の違い（からだの大きさの違い）が出せるようにもした。

[実践事例4] 学生によるロールプレイ

実践事例3での経験を元に「のせてのせて」を使っているロールプレイを実施。初めに読み聞かせを体験し、実践事例2同様、先生役は2名が担当。1回目は数頁ずつ区切って先生役を交代して一通り行ない、2回目は2名がすべてを通して行った。

[考察とまとめ]

学生の提出したレポート等により講義内容を考察していく。

＜絵本の読み聞かせについて＞

- ・ 今までは簡単だと思っていたが、実際に読んでみると思いのほか難しく、下読みの必要性を痛感した。
- ・ 抑揚のつけ方・登場人物（動物）によって声色をかえることは、即興演奏のよいヒントになった。
- ・ 多くの絵本を読み、絵本を見る楽しみを発見したい。

絵本に親しむ楽しさが少し味わえたとする記述であると考えられる。絵本は決して子どもだけのものではなく、大人も楽しめる文化財であることが理解できたものと思われる。

＜絵本を取り入れた表現活動・即興演奏＞

- ・ 楽譜を見て弾かないのが楽しい。
- ・ 2人で合わせて弾くのは難しかったが、お互いにメチャクチャにひいても音楽になることがわかり、楽しかった。
- ・ 1本指で弾いても音楽になうでいて驚いた。
- ・ 自分達が弾くピアノに合わせて皆が動いてくれることが快感だった。
- ・ 絵本を見ながら体を動かすのは楽しい。

殆どの学生が即興演奏は初体験であった。自由に弾くことの楽しさが味わえ、また、絵本を動きのための教材にしたことには概ね好感がもてたように思う。音楽の楽しさを感じて味わうことのできる「保育者は子どもの自由な表現活動を生かせる」と考える。自らが音楽を楽しめる保育者を養成するための実践と研究をさらに続けたい。